

テント一週一文 (や) —— 「ハンナ & マイケル」 作 『ひろば憲法』

(承前)

年が明けました。1月9日はテント初日でした。多くの人が朝の設営に来ていました。しかもこの日は、以前この「一週一文」でも紹介したことのある、唐津の「玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会」が呼びかけて31団体の連名で行った、玄海原発3・4号機再稼働の中止を求める九電への要請行動もあって、その参加者やマスコミ関係者などでテント周辺もテント内もざわついていました。

それが落ち着いてきたころ、まだ陽は高かったのですが、透明の「入口」ビニールを押して大柄の男の人が入ってきました。「ほら、こっちだよ」と、手をつないだ小さな子どもに入口を教えています。テント内にいた数人がこもごもに「おめでとうございま〜す」と声をかけました。中には立ち上がって頭を下げる人もいました。その子どもも男の人と一緒に「おめでとうございま〜す」と頭を下げています。

「あら、お利口さんね。干し柿食べる？」と女の人が、誰かが差し入れてくれた干し柿を一つ子どもに渡しました。子どもは、もらったことはもらったのだが、どうしたものかと手に持ったまま男の人を見上げています。彼は「いただきます」と言って、小さく割いて、その一つを子どもの口に持っていきながら、周りを見渡して、「昨年と何も彼にも一緒ですね」と言います。子どもに干し柿をあげた女の人が「何も彼にも同じってことはないわよ。カレンダーを見て。2018年版に変わっているでしょう」と抗議します。

「あ、ほんとだ。今年は日めくりですね」

「これは特製の日めくりよ」

「特製ですか？」

「そうよ。よく見てよ」

「そう言えば日めくりは細長いのが普通ですが、これは正方形に近いですね」

「違うのは形、形式、ばかりじゃないわよ。内容が違うのよ、内容が。台紙部分を見て」

「失礼いたしました。気が付きませんでした。ちょっと待ってくださいね、読んでみますから……」

◆ 「ハンナ & マイケル」 作「原発止めよう！ 九電本店前ひろば憲法」

http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/180122doc.pdf

「『ひろば憲法』。これは面白いですね」

「ほら、右下に作成者の署名が入っているでしょう。『ハンナ & マイケル』って」

「名前からみて外国の方ですか？ それにしては日本語がうまいですね」

「日本語のよくできる外国人はたくさんいらっしゃるけど、このテントではあまり見かけないわね」

「ウラ側にも何かありますよ。見てもいいですか」

「えっ本当？ ぜんぜん気付かなかったわ。見せて、見せて……」

ここまで来ると、他の人も「なに、なに？」と小さな日めくりの顔を寄せてきます。

「これはハンナ & マイケルさんによる取扱注意事項ですね」

「みんなで覗き込んでいても要領を得ないから、説明して。日本語でしょう？」

「了解しました（おっほん）。先ず『このテキストはどなたが使用していただいても構いません』とあります」

「著作権を放棄するってこと？」

「著作権はハンナ & マイケルさんが持っているけれど、誰が使っても結構ですってこと」

「ふ～ん」

「次に『テキストを変えても結構です』って」

「変えるって、どんな風に？」

「『他の地域の方が、自分たち用に、原発の地名の部分を、「伊方」とか「美浜」とかに変えて使用してもらっても構いません』って」

「火山と地震の危険性は、四国でも北陸でも、日本中どこにだってあるものね。それに、日本の原発は好き好んで海岸に沿って建てているから、津波の危険性は言わずもがなよね」

「『玄海』は残しておいて欲しいそうです」

「なぜ？ ハンナ & マイケルさんは、玄海原発に何か思い入れがあるのかしら」

「そういうわけではなさそうですね。このメモによれば、日本国憲法第九条をまねて『ひろば憲法』を作ったので、憲法九条第二項を意識しているんですって」

「憲法九条第二項といえば『前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない』よね」

「この『ひろば憲法』は『前項の目的を達するため、玄海、川内その他の原発はこれを廃炉にする』としているでしょう。憲法の『陸海空軍その他の戦力』と『玄海川内その他の原発』を対応させているそうです。とくに『陸海』と『玄海』の対応を生かしたいんじゃないでしょうか？」

「著作権者の意図は分ったわ。ハンナ & マイケルさんのメモはそれだけ？」

「『九条』と『九電』も対応しているそうです。うまいな～。でも、他の電力会社の場合はどうするのかな？」

「東電だったら『トウ』の『十』だから、日本国憲法第十条の国民の要件をパロディ化するの？ これは九条よりも難しいかもしれないわね。他には書いていない？」

「ありません」

「そう～、長い説明を色々有り難う。新年早々お疲れ様」と、女の人はお礼を言いながら、子どもの方を見ます。

「あら、お利口さんね。あなたには難しいお話だったわね。私にも難しかったわ。もう一つ干し柿食べる？ 美味しいわよ。私ももう一ついただきます。あなたたちもどう？」と、他の人にも勧めて、話題は食べ物へ移っていきます。

こうして、2018年テント初日の時間は流れていきました。

（文責 栗山次郎）2017年1月22日公開